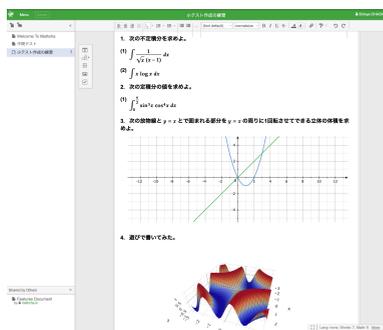


今回は、数式エディタです。

【mathcha】

<https://www.mathcha.io/editor>



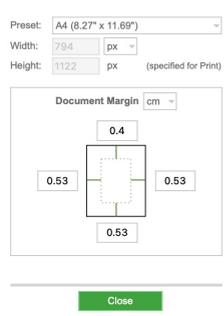
mathcha は、「抹茶」ではなく、「マッシュチャ」と読むのでしょうか。数式エディタという点、StudyAidDB を使っている方も多かもしれませんが、この mathcha は、ちょっとしたプリントを作るのに有効です。mathcha は、アプリ版もありますが、こちらはライセンスが必要なので、今回はどこでも使える Web 版を紹介しましょう。Web 版ならば、県から配布された PC でも手軽に教材が作れますね。

まずは、Web ブラウザを開き、URL を入力してみましょう。数式エディタの画面が開きます。もし「mathcha」で検索した方は、「Open Editor」を開いてください。右上でユーザ登録及びログインができます。ログインしておくと、家で作成してクラウドに保存したプリントを、学校の PC で出力することなどもできます。

最初は英語ばかりのメニューに面食らうかもしれませんが、すべては慣れです。この数式エディタに慣れた方は、もう一つの特典も手にしたことになります。もちろん日本語の入力や印刷も問題なく行うことができます。

まずは、プリントの書式を設定しましょう。右下の More と書いてある文字をクリックし、[Change] と書かれた文字をクリックすることで、書式設定ができます。A4 などのサイズに設定し、余白等もインチから cm や mm に設定するとわかりやすいでしょう。

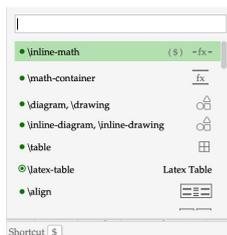
書式が設定できたら数式の入力です。一見すると横置き用の紙設定に見えますが、幅だけ設定されており、数式等を入力することで、縦に延び



ていきます。クリックして文字を入力していきましょう。

簡条書きの設定は、Customize Sections であらかじめ設定しておく、勝手に番号を振ってくれます。Tab キーや Shift-Tab で下位や上位に移動することが簡単にできます。

いよいよ数式入力です。 $\$$ と入力することで数式入力が始まります。最初は慣れないので、迷うと思いますが、分数ならば、 \backslashfrac 、ルートならば、 \backslashsqrt 、積分記号ならば、 \backslashint などと入力することで、後はガイドが出てくれます。



mathcha の左上に出ているメニューで、グラフも簡単に描くことができます。普通のグラフ作成ツールよりも豊富なグラフの種類に驚くことでしょう。この辺は、StudyAidDB よりも使えますので、まずは先生方のグラフツールとして利用するのもお勧めです。

さて、最初に話したもう一つの特典とは何でしょう。もう気づいた方もいらっしゃるかもしれません。mathcha のほとんどの数式コマンドは、数式組版システム $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ と同じなので、知らず知らずのうちに $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ を使えるようになってしまうのです。

編集委員会では、面白い数学ソフトウェアを探しています。是非とも教えて下さい。

【編集委員会】